

消 火 器 操 法

屋 内 消 火 栓 操 法

初 動 活 動 操 法



亀岡自衛消防隊連絡協議会

消 火 器 操 法 基 準

操 作 の 区 分

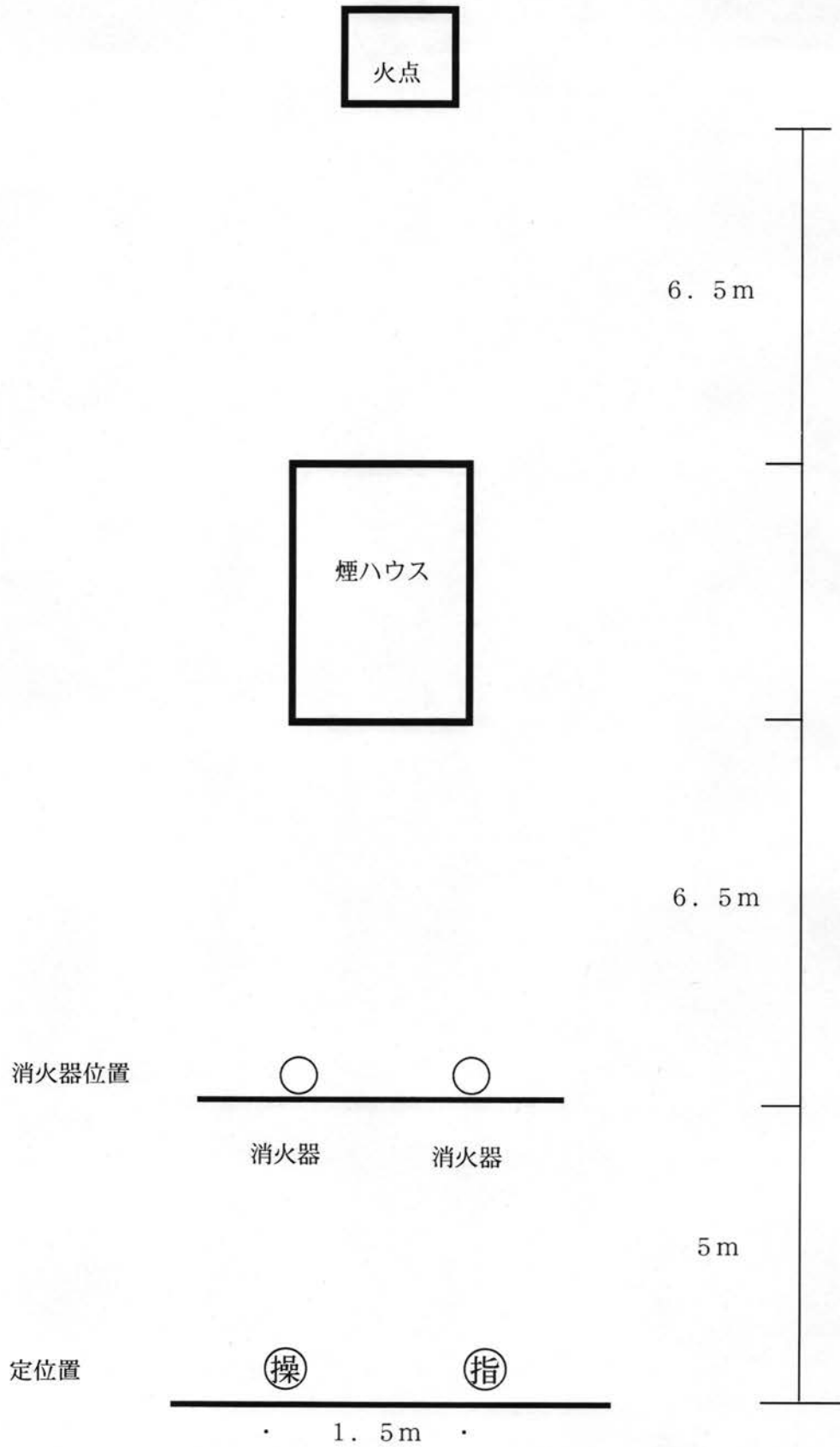
1. 指揮者 指揮及び消火活動
2. 操作員 消火活動

操 作 要 領

項目	指揮者	操作員
操法 準備	定位置上に1. 5メートルの間隔をとり整列休めの姿勢で待機する。 あらかじめ係員により、5メートル先の消火器位置に消火器を搬送しておく。	
操法 開始	(係員の開始合図により) 基本の姿勢をとり、操作員に 「気をつけ」「操作－始め」 と号令し、 操作員の「よし」の呼称後、かけ足発進する。 走りながら消火器位置で消火器を 右手に持ち、コース中央付近の煙ハウス 入り口手前で停止する。 操作員を左手で制しながら、 「とまれ」 と号令する。 そのままの姿勢で顔を操作員に向 け、 「濃煙注意」 と号令し操作員の復唱 を聞いた後、姿勢を低くして煙ハウス を通過する。 ハウスを通過して再度停止し、操作 員の「よし」の呼唱を聞いた後、左手 で火点方向を指さし 「火点発見、消火 にかかれ」 と操作員に号令し火点方向 に発進、火点風上側に左(右)向け止 まれで停止する。 その場に消火器を置き、基本の姿勢 で火点及び操作員を監視する。	指揮者の「操作－始め」の号令後 「よし」 と呼唱し、かけ足発進する。 走りながら消火器位置で消火器を右手 に持ち、コース中央付近の煙ハウス入り 口で指揮者の「とまれ」によって停止す る。 指揮者の 「濃煙注意」 を復唱し指揮者 の後に続いて姿勢を低くして煙ハウスを 通過する。 ハウスを通過後 「よし」 と呼唱。 指揮者の「火点発見、消火にかかれ」 の号令に再度 「よし」 と呼唱した後発進 し、火点手前(風上)にて至りの姿勢で 停止、そのまま安全栓を抜き、ホースを 火点に向けて構え、 「よし」 と呼唱する。
消火	操作員の「よし」を聞いた後、直ち に 「消火」 と号令し、操作員が模擬火 災を消火するのを監視する。(操作員 が消火に失敗すれば自分も消火器を 放射して消火する。)	指揮者の「消火」の号令後、 「よし」 と呼唱し、レバーを握って放射、消火に あたる。

消火 完了	係員の「消火完了」の合図で、 「消火完了」と操作員に号令する。	指揮者の「消火完了」の号令で、ホースを収納し、消火器を右手に持ったまま1挙動で正面に向かって基本の姿勢をとり「よし」と呼唱する。
引き 揚げ	操作員が基本の姿勢をとったのを確認後、消火器を持ち、操作員に「まわれー右」「かけ足ー進め」と号令する。 自らも定位置方向に向きを変え、かけ足で定位置まで走り、そのままの向きで停止し、消火器を右足元に置く。 (煙ハウスは通らずに定位置までまっすぐ帰る)	指揮者の号令でまわれ右をし、かけ足で定位置まで戻り、そのままの向きで停止、消火器を右足元に置く。 (煙ハウスは通らずに定位置までまっすぐ帰る)
解散	操作員に「左向けー左」と号令後、自らは右向け右で操作員と正対、「わかれ」と号令し、敬礼(答礼)する。 操作員に「右向けー右」と号令し、自らも左向け左をした後、消火器を持つ。 操作員に「かけ足ー進め」と号令し自らもかけ足で退場する。	指揮者の号令で左向け左をし、指揮者と正対、「わかれ」の号令で敬礼する。 指揮者の号令で右向け右をして消火器を持つ。 指揮者の号令でかけ足で退場する。

消火器操法コース配置図



屋内消火栓操法基準

操作の区分

1. 指揮者 指揮監視
2. 1番員 ホース延長及び注水操作
3. 2番員 ホース延長、消火栓の開閉操作及び注水補助

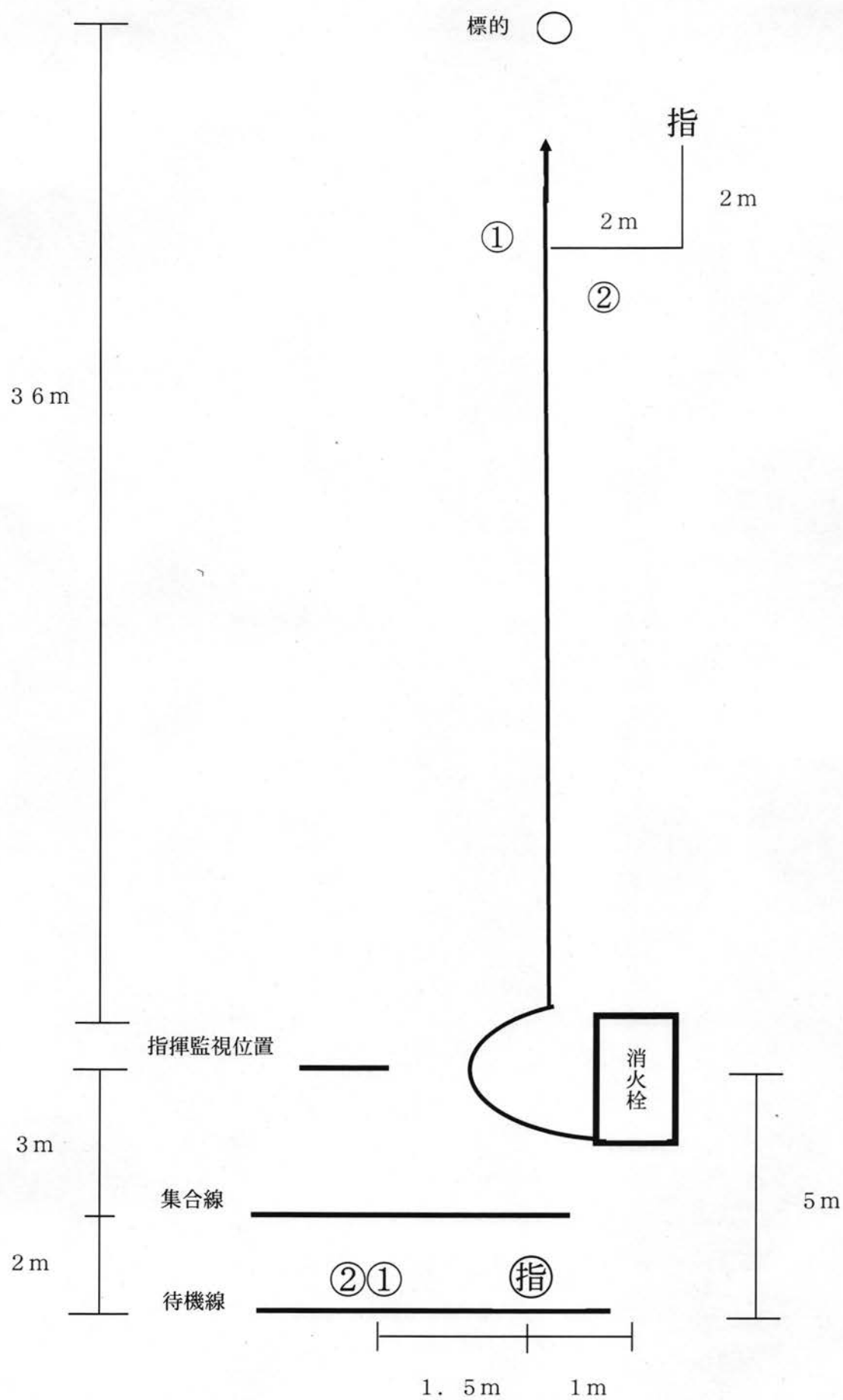
操作要領

項目	実施者	要 務 分 担
待機	指揮者	待機線上に1番員の右側1.5メートルで整列休めの姿勢で待機する。
	各隊員	待機線上に一直列横隊で整列休めの姿勢で待機する。
集合	指揮者	(係員の開始合図により) 基本の姿勢をとり「 気をつけ 」と号令し、集合線の前方3メートルの指揮位置(半ば左向け左を行い、かけ足で発進)で停止する。 右手を垂直(手のひらを前方向け)に伸ばし、「 集まれ 」と号令し各隊員を集合させる。(隊員が集合線に入り、自主的に整頓を開始した時点で手を降ろす。)
	各隊員	指揮者の「気をつけ」の号令で基本の姿勢をとる。 「集まれ」の号令で「 よし 」と呼唱後、かけ足で発進し、集合線に停止、自主的に整頓する。 (整頓要領は、1番員が基本の姿勢のまま頭を左に向け、2番員が右手を腰にあてて、ひじを側方に張り頭を右に向ける。整頓が終われば、 1番員 は「 よし 」と呼唱し、各隊員は基本の姿勢に戻る。この時、1番員と2番員の中央前方が指揮位置となるように整頓する。)
点呼	指揮者	各隊員の集合線整列を確認した後、「 番号 」と号令する。
	各隊員	指揮者の「番号」の号令で1番員から順次各自の 番号 を呼唱する。
想定	指揮者	指揮位置で「 想定、火点は前方の標的、屋内消火栓操法を実施する。 」と号令する。(ただし、「火点は前方の」の号令中は、基本の姿勢をとり、「標的」で背面に右足を1歩踏み出し、右手人差し指で標的を指差した後、再び基本の姿勢に戻る。)
	各隊員	基本の姿勢のまま、指揮者の想定を受ける。

操法 開始 ↓ 放水	指揮者	「操作－始め」と号令後、指揮位置で左向け左をし、隊員の操作を監視する。 1 番員がホースを地上に降ろすのを確認した後、左向け左で足をひきつけることなく発進し、火点側の指揮位置（筒先位置の右側方 2 メートル、前方 2 メートル）に左向け止まれで停止する。 各隊員の操作状況を監視し、1 番員のホース延長終了直前に「とまれ」と号令する。 2 番員の放水バルブ全開の「よし」を聞いた後、右向け右をし、火点監視に入る。
	1 番員	指揮者の「操作－始め」の号令で「よし」と呼唱し、半ば右向け右で 2 番員が扉を開けるのを待ち、かけ足で消火栓箱の前に左足至りで停止する。 その後、右ひざを地面につけ、筒先と第 2 ホースを両手で取り出して一度地上に降ろした後、右脇で抱え、2 番員の「よし」の呼唱でかけ足発進する。 2 番員の「よし」の呼唱により至りの姿勢で停止し、「放水始め」と呼唱した後、右脇に抱えたホースを延長する。 指揮者の「とまれ」の号令により左足至りで停止し、前傾姿勢をとり火点注水姿勢で待機する。
	2 番員	指揮者の「操作－始め」の号令で「よし」と呼唱し、半ば右向け右で足をひきつけることなくかけ足で発進、消火栓箱の前に左足至りで停止する。 直ちに消火栓箱の扉を両手で開きながら、左足を 1 歩引き「よし」と呼唱する。 1 番員が筒先と第 2 ホースを取り出したのを確認後、左足を 1 歩踏み出し、右ひざを地面につけ、余裕ホースを右手で引き出し後方に置く。 続いて第 1 ホースを両手で取り出して一度地上に降ろした後、右脇の抱え「よし」と呼唱し、かけ足発進してホースを延長する。 第 1 ホースの延長が終われば左足至りの姿勢で停止し、「よし」と呼唱、さらに 1 番員の「放水始め」を復唱する。 まわれ右の後、足をひきつけることなくかけ足発進し、第 2 結合部の消火栓箱寄りではホースをまたぎ、消火栓箱前に左向け止まれで停止する。 余裕ホースを整理した後、起動ボタンを押し、放水バルブを全開して「よし」と呼唱、火点方向に向きを変え、かけ足で発進する。 ホースをまたぐことなく、2 番員の右後方に右足至りで停止し、ホースを両手で持ち、前傾姿勢をとって「よし」と呼唱、注水補助姿勢をとる。

放水 やめ ↓ 集合	指揮者	(係員の「消火完了」の合図により) 度の深い左向け左をし、2番員に向かって右手を水平に真横に出して「放水止め」と号令する。 2番員の放水停止作業終了の「よし」を復唱した後、かけ足で指揮位置にもどり、右手を垂直に上に伸ばし、「集まれ」と号令をかけ、隊員を集合させる。(2番員が到着した時点で手を降ろす。)
	1番員	2番員の放水停止作業終了の「よし」を復唱すると同時に、筒先を地面に置き、基本の姿勢をとる。 指揮者の「集まれ」の号令後「よし」と呼唱し、まわれ右をし、足を引きつけることなく、ホースに沿って、かけ足で集合位置に戻り、自主的に整頓する。
	2番員	指揮者の「放水止め」の号令を注水補助姿勢のままで復唱し、ホースを離してそのまま、まわれ右をした後、足を引きつけることなくかけ足で発進、消火栓箱に至り左向け止まれで停止する。 放水バルブを完全に閉めて「よし」と呼唱、左向け左で火点に向かい基本の姿勢をとる。 指揮者の「集まれ」の号令で「よし」と呼唱し、度の深い左向け左で足を引きつけることなくかけ足で発進し、集合位置に戻り基本の姿勢で待機、1番員が戻った時点で自主的に整頓する。
報告 ↓ 解散	指揮者	最後の隊員が集合位置に戻り手を降ろした時点で、1番員から報告を受け、「わかれ」と号令し、敬礼(答礼)する。 1番員の「まわれ右」に合わせて半ば左向け左をした後、1番員の「かけ足一進め」の号令に合わせてかけ足で退場する。
	1番員	指揮位置にいる指揮者に対し、顔を向け「操法終了しました。」と報告、指揮者の「わかれ」の号令で半ば左に向きを変え、敬礼後元に復する。 隊員に「まわれ一右」と号令し、自らもまわれ右をした後、さらに「かけ足一進め」と号令、自らもかけ足にて退場する。
	2番員	指揮者の「わかれ」の号令で半ば右に向きを変え、敬礼後元に復する。 1番員の号令に従い、まわれ右、かけ足にて退場する。

屋内消火栓操法コース配置図



初動活動操法基準

操作の区分

1. 指揮者 指揮及び放送
2. 1番員 現場確認
3. 2番員 119番通報

操作要領

項目	実施者	要 務 分 担
待機	指揮者	待機線上に1番員の右側1.5メートルで整列休めの姿勢で待機する。
	各隊員	待機線上に一直列横隊で整列休めの姿勢で待機する。
集合及び点呼	指揮者	(開始の合図により) 基本の姿勢をとり「 気をつけ 」と号令し、集合線の前方3メートルの指揮位置(半ば左向け左を行い、かけ足で発進)で停止する。 右手を垂直に伸ばし、「 集まれ 」と号令して各隊員を集合させる。 各隊員が、整頓を確認したのち「 番号 」と号令する。
	各隊員	指揮者の「 気をつけ 」の号令で基本の姿勢をとる。 「 集まれ 」の号令で整一に集合線上に進み1番員を基準として自主的に整頓する。 (整頓要領は、1番員が基本の姿勢のまま頭を左に向け、2番員が右手を腰にあてて、ひじを側方に張り頭を右に向ける。整頓が終われば、 1番員 は「 よし 」と呼唱し、各隊員は基本の姿勢に戻る。) 指揮者の「 番号 」の号令で基本の姿勢のまま1番員から順次各自の 番号 と呼唱する。
操法開始	指揮者	自火報ベルの鳴動で、「 訓練開始、防災センターに集合 」と号令し防災センターに至る。 自火報の受信機の表示窓を確認して、「 〇〇階出火 」と呼唱し、適宜主ベルを停止して「 1番員現場確認 」、「 2番員119番通報 」と下命する。 その後、適宜地区ベルを停止し、放送設備又は携帯マイクで従業員や避難者に対し「 只今、〇〇階の自動火災報知設備が作動しました。次の放送に注意して下さい。 」と2回放送する。
	1番員	指揮者の「 訓練開始、防災センターに集合 」の号令で「 よし 」と呼唱し、(半ば左に向きを変え)防災センターに至る。 指揮者の「 1番員現場確認 」の号令で、「 よし 」と呼唱し、消火器、携帯用送受話器を持って現場に至る。

操 法 開 始	2 番員	指揮者の「訓練開始、防災センターに集合」の号令で、「よし」と呼唱し、(半ば左に向きを変え) 防災センターに至る。 指揮者の「2 番員 1 1 9 番通報」の号令で「よし」と呼唱し、防災センター内の加入電話で「こちらは〇〇町〇〇の〇〇事業所です。〇〇階の自動火災報知設備が作動しました。現在調べています。」と消防機関へ通報し「1 1 9 番通報よし。」と呼唱して、待機する。
火 災 断 定	指揮者	受信機の電話ブザーの鳴動により、携帯用送受話器のジャックを差し込み「防災センターです。」と応答し、火災断定を受信したのち、2 番員に「1 1 9 番火災通報、〇〇階〇〇室出火、負傷者なし。」と下命する。 その後、放送設備又は携帯マイクで「自衛消防隊に連絡する。〇〇階〇〇室から出火、活動を開始せよ。」と指示するとともに、「皆さんに連絡します。〇〇階〇〇室から火災が発生しました。自衛消防隊の指示に従って避難してください。」と2 回放送する。
	1 番員	火災発生を確認して、「火事だ! 〇〇室が火事だ!」と大声で叫びながら発信機に至り、携帯用送受話器のジャックを差し込み「〇〇階〇〇室から出火、負傷者なし。」と連絡したのち、消火器を放射する。 消火器は放射後その場に置き、付近において避難誘導を実施する。(係員の合図により指揮者の方に向きを変え基本の姿勢をとる。)
	2 番員	指揮者の「1 1 9 番火災通報」の号令により、加入電話で「先程の〇〇事業所ですが、〇〇階〇〇室が燃えています。負傷者はありません。」と通報し、「1 1 9 番通報よし。」と呼唱して待機する。
集 合 ↓ 解 散	指揮者	各操作開始時の指揮位置において基本の姿勢をとり、右手を垂直に伸ばして「初動班、集まれ」と号令し、隊員を集合させる。 整頓を確認したのち「番号」、「わかれ」と号令する。 隊員の敬礼(答礼)後、1 番員の「まわれー右」に合わせて、半ば左に向きを変え、1 番員の「かけ足ー進め」の号令に合わせてかけ足で退場する。
	1 番員	指揮者の「初動班、集まれ」の号令で基本の姿勢をとり「よし」と呼唱、向きをかえかけ足で集合線に集合し、自主的に整頓する。 指揮者の「番号」の号令で、「1」と呼唱し、指揮者の「わかれ」に号令で半ば左に向きを変え、敬礼後元に復する。 2 番員に「まわれー右」と号令し、自らもまわれ右をした後、さらに「かけ足ー進め」と号令、自らもかけ足で退場する。
	2 番員	指揮者の「初動班、集まれ」の号令で「よし」と呼唱、向きを変えかけ足で集合線に集合し、1 番員を基準として自主的に整頓する。 指揮者の「番号」の号令で1 番員に続き「2」と呼唱し、指揮者の「わかれ」の号令で半ば右に向きを変え、敬礼後元に復する。 1 番員の号令に合わせて、まわれ右、かけ足にて退場する。

初動活動操法コース配置図

